平成25年度　宮城の発掘調査パネル展

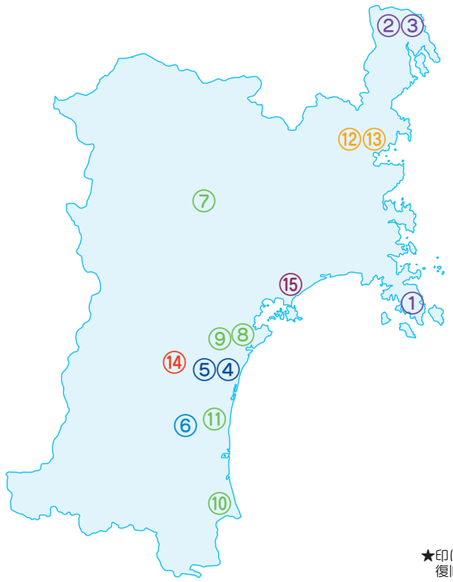
宮城県教育庁文化財保護課

宮城県には、旧石器時代から明治時代まで約6,200ヶ所の遺跡があります。これらは私たちの祖先が残した貴重な遺産であり、大切に保存し後世に伝えていくことは私たちの責務と考えております。

県教育委員会は、これらの保護と活用に全力をあげて取り組んでおりますが、開発に伴って姿を消す遺跡もあり、それに対しては、やむを得ず発掘調査を実施して記録に残すことにしています。

このたび、平成25年度に行った発掘調査の中で、特に注目すべき成果のあった遺跡や遺物をパネルで紹介することにいたしました。本県では、東日本大震災の復興事業に伴う発掘調査が増加しており、県教育委員会は全国から集まった派遣職員の支援を得て、調査の早期終了を目指しています。今回は、こうした遺跡の調査成果を中心に取り上げています。この機会に遺跡に親しみ、文化財の保護に対して御理解を深めていただければ幸いです。

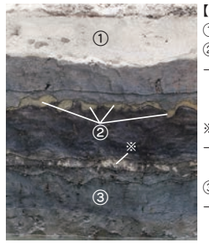
今回の展示にあたって快く御協力をいただきました各教育委員会・機関に対し、この場を借りて厚く御礼を申し上げます。



★印は、東日本大震災の復旧・復興調査

時代	世代	日本の主な出来事	パネル番号
旧石器	約400万年前 約3.5～4万年前	アフリカで人類が誕生する 後期旧石器時代が始まる	
縄文	約1万2千年前 約5000年前	土器・弓矢が出現する 三内丸山遺跡（青森県）で集落が営まれる	★① ★② ★③
弥生	紀元前400年頃	東北地方で米作りが始まる	★④ ★⑤
古墳	紀元後300年頃	豪族が盛んに古墳を造る	⑥
飛鳥	607年 645年	推古天皇、小野妹子を隋に遣わす（遣隋使） 大化の改新が起こる	
奈良	710年 724年 752年	平城京（奈良市）に都を移す 多賀城が築かれる 東大寺の大仏が完成する	⑦ ⑧
平安	794年 869年 894年 1167年	平安京（京都市）に都を移す 貞観大地震で多賀城が大きな被害を受ける 遣唐使の派遣が停止される 平清盛が太政大臣となる	★⑨ ★⑩ ★⑪
鎌倉	1192年 1274・1281年	源頼朝が征夷大将軍になる 文永・弘安の役（元寇）が起こる	
室町	1338年 1467年	足利尊氏が室町幕府を開く 応仁の乱が起こる	★⑫⑬
安土桃山	1590年 1600年	豊臣秀吉が天下を統一する 仙台城の築城始まる	
江戸	1603年 1611年	徳川家康が江戸幕府を開く 慶長三陸地震津波で仙台平野が大きな被害を受ける	★⑭
明治	1868年 1876年	明治維新 明治天皇が東北を巡幸する。	★⑮

奈良～平安時代　3つの時代の津波堆積物を同時に発見



【それぞれの津波堆積物】
①2011年の東日本大震災の津波堆積物
②17世紀頃の津波堆積物
→粒の細かい砂が5cmほど堆積している。
この時代には、慶長16年（1611）の慶長三陸地震による津波の記録（「伊達治家記録」）がある。
※灰白色火山灰
→青森県十和田湖の噴火で降り積もった火山灰。915年頃の噴火と考えられ、年代を決定する目安となる。
③9世紀頃の津波堆積物
→粒の粗い砂が20cmほど堆積している。
この時代には、貞観11年（869）の貞観大地震による津波の記録（「日本三代実録」）がある。

⑪高大瀬遺跡（岩沼市）

【復興調査】矢野目排水機場建設事業

遺跡は現在の海岸線から内陸に約1.2kmの位置にあります。今回の調査で、同一地点から3つの時代の津波堆積物を発見しました。同時に検出した火山灰との関係や年代測定の結果から、東日本大震災より古い津波堆積物は、1611年の慶長三陸地震と869年の貞観大地震によるものと考えられます。

このような発見は全国的に見ても非常に珍しく、防災や減災を進めていくための資料として今後の活用が望まれます。

※江戸時代の海岸線は現在の海岸線に近い位置にあると推測されます。

鎌倉～室町時代　全貌が明らかになった中世の山城

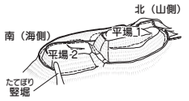
写真奥に見えるのが志津川の旧市街地と志津川湾です。遺跡はそれらを望む高台にあります。

⑫新井田館跡（南三陸町）

【復興調査】土地区画整理事業

標高67mの丘陵にある室町時代（約500年前）の山城跡です。城跡全体が発掘調査の対象となり、平場7カ所、堀8条、土塁11条が見つかりました。平場1と2では、大型の掘立柱建物跡が見つかり、城の中心部とみられます。城全体を調査してその全体が明らかになった事例は全国でも珍しく、貴重な成果となりました。

南北約160m、東西90mあります。



新井田館跡の復元模式図

山城を囲む大規模な土塁と堀

⑬新井田館跡（南三陸町）

【復興調査】土地区画整理事業

山城には大規模な土塁と堀が巡っていました。どちらも総延長が400m以上になります。規模は最も大きいところで、土塁が幅18m・高さ3m、堀が幅8m・深さ3mあります。これらは保存状態が良好で、当時の堅固な山城の姿をよく残しています。

土塁は、種類の異なる土を交互に盛ってつくられています。

堀は、完全に埋まった状態で見つかりました。

土塁の頂部（左）と堀底（右）までの高低差は最大で5mあります。

江戸時代　解明進む西門石垣

西門石垣では、野面積み（自然石を積む）と切石積み（四角に加工した石を積む）の2つの積み方が確認されました。

切石積みの並びにずれがあるのは、積み直しによるものとみられます。

⑭史跡仙台城跡（仙台市青葉区）

【復旧調査】仙台城跡本丸石垣復旧工事

西門は仙台城本丸の西側に位置します。東日本大震災で崩れた石垣の修復に先立って調査したところ、石垣が数回にわたり積み直されていることが分かりました。地震で変形・崩落した石垣を修理したことが当時の文献に記されており、この記述が今回の調査で裏付けられました。

仙台城跡周辺の地図

明治時代　明治時代の下水道施設を発掘

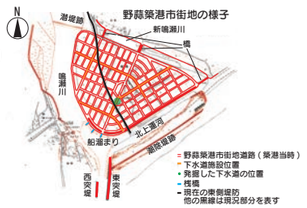
調査では、当時の市街地の中央を南北に走る通りに敷設された下水道の一部を発見しました。規模は、長さ11m、幅1.1m、高さ0.8mです。近くで切り出された凝灰岩の切石を積んで作られています。

⑮野蒜築港跡（東松島市）

【復興調査】堤防の復旧整備事業

明治政府による日本最初の近代港湾建設事業である野蒜築港跡で、同時に整備された港湾都市の下水道跡が見つかりました。

日本の近代下水道施設としては初期のものであり、歴史学的及び土木学的にも大変重要な遺構です。



野蒜築港は、明治政府による東北開発の中心事業と位置付けられていましたが、完成から3年後の明治17年（1884）に台風の影響で突堤が崩れ、放棄されました。

東日本大震災からの復興と遺跡調査(1)

復興事業の促進と遺跡保護の両立を目指して

東日本大震災によって甚大な被害を受けた沿岸市町では、高台移転などの新たな街づくりや、道路建設、鉄道移設などの大規模な復興事業が本格化し、また、個人住宅や企業の再建等も進められています。

こうした復興事業が遺跡と重なることもありますが、宮城県では、被災地の一日も早い復興と地域のかけがえのない歴史的遺産（遺跡）の保護の両立を目指し、関係機関と協議を重ね、様々な施策を講じながら、迅速な調査に取り組んでいます。

◎調査体制の強化

平成24年度以降、全国から発掘調査専門職員の派遣を受けて調査員を増員し、復興事業に伴う調査に対応しています。

平成25年度は、計24名の専門職員の方が支援に来ています。

【H25派遣職員】

秋田県　山形県　新潟県　群馬県
埼玉県2　神奈川県　山梨県　岐阜県
奈良県　兵庫県　福井県　石川県
岡山県　広島県　島根県　山口県
徳島県　香川県　佐賀県　宮崎県
熊本県　新潟市　京都市

（21県2市から計24名）

◇宮城県教育委員会の調査体制

	宮城県（※）	派遣職員	計
H24（上半期）	23	9	32
H24（下半期）	23	17	40
H25	23	24	47

※文化財保護課　20名
東北歴史博物館（協力）　2名
多賀城跡調査研究所（協力）　1名

◎発掘調査基準の弾力的運用

復興事業に伴う調査においては、通常の発掘調査基準を弾力的に運用し、原則として遺跡が壊される範囲のみを調査対象とすることによって盛土施工部分や工事の掘削が及ばない下層の調査等を省き、調査期間の短縮を図っています。

東日本大震災からの復興と遺跡調査(2)

大勢の人が詰めかけた現地説明会（気仙沼市波怒葉館遺跡）

厳冬期の吹雪の中での調査（気仙沼市波怒葉館遺跡）

地元の小学生が遺跡見学（南三陸町新井田館跡）

除しい山城跡（中世）の調査（南三陸町新井田館跡）

“チーム石巻”全国から駆け付けた派遣職員の皆さん

縄文時代の大集落跡を調査（石巻市中沢遺跡）

JR常磐線移設事業に伴う遺跡調査（山元町熊の作遺跡）

現地説明会で、調査を担当した派遣職員の説明を聞く来跡者（多賀城市山王遺跡）

協力（五十音順）
石巻市教育委員会（中沢遺跡）岩沼市教育委員会（熊野遺跡、高大瀬遺跡）大崎市教育委員会（三輪田遺跡）気仙沼市教育委員会（波怒葉館遺跡、台の下貝塚・台の下館跡）仙台市教育委員会（荒井広瀬遺跡、中在家南遺跡、仙台城跡）多賀城跡調査研究所（多賀城跡）奈良文化財研究所（波怒葉館遺跡）東松島市教育委員会（野蒜築港跡）南三陸町教育委員会（新井田館跡）

文化財保護課のホームページアドレスは、http://www.pref.miyagi.jp/bunkazai/index.htm

発掘現場から　文化力　POWER OF CULTURE

埋蔵文化財は、国や地域の歴史と文化の成り立ちを明らかにするうえで欠くことのできない国民共有の財産であり、また、これらを解明するうえで発掘調査は必要不可欠なものです。このため、文化庁では「発掘現場から　文化力」のロゴマークを作成し、広くロゴマークを推奨し活用することで、国民や地域住民に埋蔵文化財や発掘調査に対する正しい理解と協力を促進することを目的としています。背景のカラーは発掘調査にふさわしい茶系統を使用しています。

縄文時代　高台につくられた6,000年前のムラ

広場を囲むように多数の柱穴（黒い点）が発見されました。赤色の範囲は建物跡や住居跡です。

①中沢遺跡（石巻市）

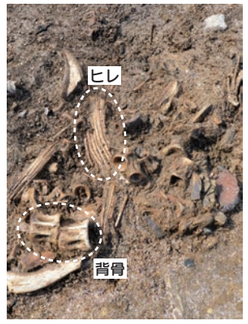
【復興調査】高台移転事業

牡鹿半島にある縄文時代前期（約6,000年前）を中心とした遺跡です。丘陵の上につくられたムラのほぼ全域を調査し、大型の建物や住居が広場を囲んで放射状に建てられていることがわかりました。また、周辺の斜面に捨てられた土器や石器などが多量に出土し、高台のムラの様子がよくわかる貴重な発見となりました。

長さが約23mある長方形の大型建物跡と推定されます。

この頃の土器や石器には、はしご状の文様が描かれたものがあります。

縄文時代のマグロ解体場



左：マグロの背骨やヒレが出土したようす
右：出土したマグロの骨【撮影：中村一郎（奈良文化財研究所）】
下：石器が刺さったマグロの背骨

②波怒棄館遺跡（気仙沼市）

【復興調査】高台移転事業

広田湾を望む高台につくられた縄文時代前期（約5,500年前）のムラです。丘陵斜面で見つかった貝塚から、縄文土器や石器と一緒にマグロの骨が多量に出土しました。マグロの背骨に石器が刺さったものも見つかり、石器でマグロを解体したことが分かります。三陸地方の縄文人はマグロを含む豊かな食生活を送っていたことがわかりました。

ムラは広田湾を望む高台につくられました。赤で囲んだところが貝塚です。貝塚のほかには多数の柱穴などが発見されています。

土器と石でつくった炉をもつ住居跡

③台の下貝塚・台の下館跡（気仙沼市）

【復興調査】高台移転事業

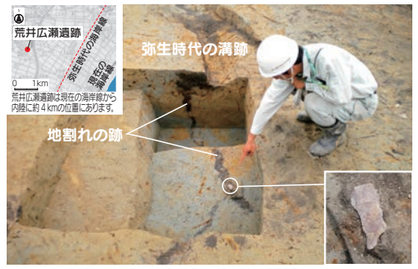
縄文時代中期（約4,500年前）のムラで、竪穴住居跡10軒を発見しました。住居内には、石を組み土器を埋めてつくった炉があります。このような構造の炉は、火をたく場所が複数あることから「複式炉」とよばれ、この時期の東北地方で流行しました。県北の沿岸部では初めての発見となりました。

発見した竪穴住居跡で、大きさは約4.7mあります。炉の跡は、古いもの（破線部分）を含めると3基見つかっており、2度作り直されていることがわかりました。

埋めた土器の位置や数などに違いが見られ、さまざまな形の炉がつくられています。

遺跡は、波怒棄館遺跡の北東約400mの高台にあります。

弥生時代　弥生時代の地震と津波の痕跡



地割れの跡からは弥生時代の石器が出土しました。

④荒井広瀬遺跡（仙台市若林区）

【復興調査】土地区画整理事業

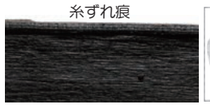
弥生時代中期（約2,200年前）の地震の痕跡とみられる地割れの跡が見つかりました。地割れは津波によって運ばれた砂に覆われていることから、地震の直後に津波が押し寄せたと推定されます。

今回の調査で、弥生時代にも日本近海で地震が発生し、津波が引き起こされたことが判明しました。

地割れの跡は幅が5～20cm、深さが約60～80cmありました。

東北初！弥生時代の機織り道具を発見

緯打具は長さ23cm、幅5cm、厚さ1cmあります。



板の端には機織りの際にできた糸ずれの痕跡が残っています。

当時の機織りのようす（東村純子2012『考古学からみた古代日本の紡織』より転載）

遺跡からは鍬などの木製品が多数出土しました。

⑤中在家南遺跡（仙台市）

【復興調査】土地区画整理事業

河川跡から弥生時代中期（約2,200年前）の土器や石器とともに、鍬や竪杵、斧柄などの農工具や弓、梯子などの木製品が多量に出土しました。また、東北地方では初めての出土例となる「緯打具」とよばれる機織りに使われた道具も見つかりました。これにより、東北地方にも弥生時代に、機織りにより布をつくる技術が伝わっていたことが明らかとなりました。

古墳～飛鳥時代　古墳時代の住居のようす

貯蔵穴は住居の南東の隅につくられていました。

⑥熊野遺跡（岩沼市）

竪穴住居跡6軒を発見しました。最も古いものは古墳時代前期（約1,700年前）にさかのぼるとみられます。この住居の隅には貯蔵穴が設けられており、中から食糧の保管に用いたと考えられる土器が出土しました。北へ約500m離れた北原遺跡でも同じ時期の竪穴住居跡が36軒確認されており、当時の遺跡周辺における人々の暮らしを考える上で貴重な成果となりました。

貯蔵穴からは、残りのよい土器が多数出土しました。

奈良～平安時代　推定1km以上ある長大な材木塀跡を発見

材木塀は、役所などの区画施設や防御施設とみられます。太さ約10～20cmに割った木材を、20～30cm間隔で並べてつくられたことがわかりました。

⑦三輪田遺跡（大崎市）

遺跡の北側と西側で材木塀跡を発見しました。隣接する権現山遺跡の北側で見つかった材木塀跡と一連のものと思われます。

見つかった材木塀は8世紀初頭のものと考えられ、塀で囲まれた南側の丘陵に本体があるとされる、国府多賀城創建（西暦724年）以前につくられた役所の一端が明らかになりました。

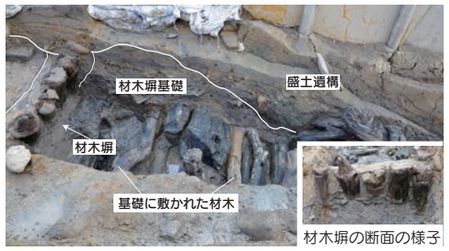
材木塀が延びる様子（北西から）

多賀城創建期の材木塀跡を発見

⑧特別史跡多賀城跡（多賀城市）

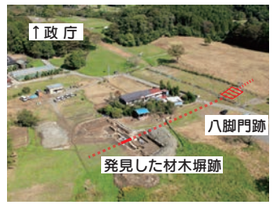
従来考えられていた門や塀の内側から、多賀城創建期の門跡（八脚門）や築地塀跡が近年相次いで発見され、以前とは異なった姿であることが明らかになってきました。

今回の調査で、多賀城創建期の材木塀跡を初めて発見し、門跡へつながることが分かりました。これにより、南側区画施設の構造や規模の一部を知ることができました。



材木塀基礎の断面の様子です。付近は湿地であるため、材木を敷いて基礎を補強しています。

材木塀の断面の様子



近年の調査により、多賀城創建期（奈良時代前半、約1300年前）の南側外郭施設は以前の想定とは異なり、多賀城碑のある丘よりも約100～120m北側にあることが判明しています。

多賀城城下の街並みの様子が明らかに

今年度の調査範囲（白枠内）で見つかった主な道路跡です。調査が終了したところから三陸沿岸道路の工事が行われています。

⑨山王遺跡八幡地区（多賀城市）

【復興調査】三陸沿岸道路建設事業

奈良・平安時代の古代都市である多賀城城下の北西部分にあたる場所を調査しました。

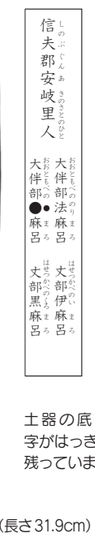
この地区では、奈良時代には造られていなかった道路が、平安時代になると徐々に整備されて、それを基準とした碁盤目状の街並みが造られていきます。

今年度の調査では、北2道路などの道路跡のほか、多数の建物跡を発見し、北西部の街並みや集落の様子がより明確になりました。

東西に延びる幅約7mの北2道路跡です。このような道路が碁盤目状に整備されて街並みが区画されます。

東北地方で最古級の木簡が出土

〈実物写真〉〈赤外線写真〉〈釈文〉



（長さ31.9cm）

⑩熊の作遺跡（山元町）

【復興調査】JR常磐線移設事業

出土した木簡は、信夫郡安岐里に本籍をもつ4人の男性を管理する名簿であるとみられます。「里」という表記から、大宝令の郡里制が施行された8世紀初めに書かれたものと考えられ、これは東北地方で最古級の木簡です。

また、近くからは「坂本願」と墨で書かれた土器が出土しています。この遺跡は坂元地区にあり、当時から“さかもと”の地名が使われていたことが分かる貴重な発見となりました。

土器の底に文字がはっきりと残っています。

用語解説　◆**国府**：国を治める場所。陸奥国は多賀城におかれた。　◆**築地塀**：屋根を葺いた土塀。　◆**木簡**：文字が書かれた短冊状の木の札。　◆**山城**：標高の高い場所に造られた城。　◆**平場**：山を削り、土を盛って平らにした場所。城の一区画。　◆**土塁**：土を盛って造られた高まり。防御の役割がある。